

9月17日(日) 研究発表第5室(721)

第二言語学習におけるコレクション：
「セルフコレクション」の意義と「他者からのコレクション」はいつ得られるのか

Correction in Second Language Learning:
The Significance of Self-Correction and When Other-Correction is Available

トロント大学大学院 田中順子

セルフコレクション コンプリヘンシブル・アウトプット NNS-NS 会話 エラー

目的

「セルフコレクション」(self-correction)は発話者が自身の発言を修正することであり、発話者以外が発話者の発言を修正する「他者からのコレクション」(other-correction)とは対照的である。この「セルフコレクション」は第二言語学習において有効な学習手段であると考えられる。学習者は、「セルフコレクション」をする過程を通じ、自身が意図した意味内容と用いた言語形態とを照らし合わせて、意図した意味内容により適した言語形態へと修正をしていくことができるようになる、と推測される。言い換えれば、伝達しようとした意味内容を、文法的に正しく、首尾一貫して、適切に表現しようとするのが--Swain (1985)の言うコンプリヘンシブル・アウトプット(comprehensible output)を創出することが--このようなプロセスを通して可能になると考えられる。しかし、問題は、学習者が必ずしも正しく「セルフコレクション」をすることが出来ないことであり、また、「他者からのコレクション」も実際のコミュニケーション・セッティングにおいては容易に得られないことである。つまり、学習者が他者からのコレクションを必要とし望んでいるときに、それが必ずしも得られないというディレンマが存在するのである(Yu 1990)。本発表では、目標言語(英語)が話されている環境下にいる成人第二言語学習者の、教室外での第二言語学習に焦点をあて、どのような場合に、ノンネイティブスピーカー(NNS)である学習者の「セルフコレクション」に対し、「他者からのコレクション」が与えられるのかについて考える。また、ネイティブスピーカー(NS)がNNSの対話者である場合、NSがNNSにコレクションを与える条件があるとすれば何であるのかについても考察を加えたい。

方法

まず、NS同士のコミュニケーションについての Schegloff et al. (1977)の先行研究をもとに、コレクションの成り立ち(organization)について述べる。次に、NS間に見られるコレクションの成り立ちを枠組みとして、NNSとNS間のコミュニケーションにおいてどのようなコレクションが見られるのかについて、会話データをもとに考察する。会話データは Yu 及び発表者のダイアリー中に現れたものを主とする。これらの会話データに加え、Schwartz (1980)、Gaskill (1980)、Takahashi (1989)、Pica (1989)、Poullisse (1989)らの論文中的会話データもあわせて参照する。これらデータのほとんどは成人NNSと成人NS間の会話であり、Schwartz から引用したデータの

み成人NNS同士間の会話である。これらの会話データの分析については、本研究では質的分析を行うことを目的とし、数量的分析は加えない。

仮説

1. 他者からのコレクションはセルフコレクションに比べ起こりにくいのではないか。
2. 他者からのコレクションが起こるためには何らかの条件があるのではないか。

結論

1. Schegloff et al.の分析結果に即した以下のような傾向がNNSとNS間においても確認された。
 - i) トラブルの原因である発言をした発話者(本研究のデータ中ではNNS)に「セルフコレクション」の機会がまず与えられる。これは、その発話者の対話者が「他者によるコレクション」をする機会を差し控えることで実現される。
 - ii) 修正が行われる課程についても、NS同士間の会話に見られるものと同様の傾向が見られた。
2. NNSとNS間において以下のような傾向が見られた。
 - i) NNSの発話に言語エラーが含まれていても、発話の意味するところがわかる場合、NNSの対話者はその言語エラーに対しコレクションをしない。
 - ii) 発話の意味するところが明確であるにも関わらず、NNSの対話者がその言語エラーに対しコレクションをする場合には、いくつかの前提条件を充たす必要がある。それらの条件とは：(1) コレクションをする時間的余裕があること；(2) NNSと親しいこと；(3) 対話者であるNSが、NNSのエラーをそのまま放置するべきではないと考えるに足る理由があること、などである。
 - iii) NNSがコレクションを得るためにとる戦略として次のような方策が挙げられる。NNSは：(1) 会話終了後、第三者に自分の言語エラーについてメタ言語的に尋ねる；(2) 言語エラーが確認されたその場で、あるいはその言語エラーが起きた会話のコンテキストが保たれている内に、対話者に言語エラーについてメタ言語的に尋ねる。このようなNNSの自発的な行動によって、他者からのコレクションを誘発することが出来る。

結び

本研究において、NS同士間のコレクションについてのSchegloff et al.の分析結果が、NNSとNS間のコレクションにも概ねあてはまることが確認された。「他者によるコレクションは」、NNSが最も必要としている時に供給されるものではなく、むしろ、その出現は高度に束縛されているものであり、その出現を満たすための条件が満たされない限り、「他者によるコレクション」をNNSは得ることが出来ない、ということが言えよう。

9月17日(日) 研究発表第5室(721)

I コレクションの成り立ち (特記のない限り Schegloff et al. (1977)による)

1. コレクションへの着手

- 発話者自身が着手 (self-initiation)
- 他者(発話者以外の者)が着手 (other-initiation)

2. コレクションへの着手を示すもの

a. 発話者自身がコレクションに着手する場合

- lexical means "I mean", "you know"
- non-lexical means pauses, cutoffs, rising-tones, "uh"
- extralinguistic features eye-gaze (Gaskill 1980)

b. 他者がコレクションに着手する場合

- turn constructional devices "Huh?", "What?"
- question words "Who...?", "When...?", "Where...?"
- partial repeat of the trouble-source turn "One ten?"
- partial repeat of the trouble-source turn, and a question word "Met whom?"

II 会話データ

(1)

A man came to a NNS's office to look for E, who is a NNS's officemate, while E was away. The NNS said to the man:

NNS: She has been away to fetch water.

(The NNS felt the expression was awkward.)

NNS: She has gone for water.

(The NNS still felt uncomfortable with the sentence.)

The man went away without giving feedback to the NNS.

When E came back, the NNS asked her how to say it.

E: I would say' <sic> she just went to get some water.

The man came to the office again.

NNS: Why didn't you correct my error just now?

Man: Since I understood what you meant, why should I bother? In fact I am used to hearing not-so-idiomatic sentences.

[Yu, p.5]

(2)

A NNS was going to buy some cheese at a shop. A store clerk there asked her how much she wanted. The NNS searched for a word which denotes for a unit of Brie Cheese. The NNS avoided to say the unit, and said "Two-thirds".

NNS: Two-thirds.

Clerk: Two-thirds. (Laugh)

(He was beginning to cut the cheese.)

9月17日(日) 研究発表第5室(721)

NNS: How <sic> do you call it? (pointing "the paper" on the Brie cheese)

Clerk: One label. (Laugh)

How much do you need? (pointing to another cheese that the NNS had told she would want)

[Cheese shop, November]

(3)

A NNS met R.

NNS: Where is the office you were directed to move to?

(He sensed immediately that the word 'directed' was not properly used.)

R: They want to move us to the printing room.

(The NNS knew that 'move' can be used with things but not people, so he had not dared to use 'move' with a person in this case. Now he knows that that was not the case.)

[Yu, p.10]

(4)

E told the NNS that it had taken her a year to write the QRP.

NNS: You did work that year?

(The NNS was really dissatisfied with this expression.)

Suddenly the NNS heard E say.

E: Yes, I was working that year.

(So, the NNS knew that the past progressive aspect should have been used instead of simple past.)

[Yu, p.13]

(5)

A NNS was at the circulation desk in the library.

NNS: I have asked you to hold a book which should have been due on Dec. 1.

Is it...

L: It's not in yet.

(pause)

NNS: Then the person also pay-(cutoff).

(The NNS's utterance ended like a cutoff, because the NNS was not sure whether she could say 'pay the fine' or she should add something after that.)

(pause)

L: Yeah, that person has to pay for that.

[Library, December]

(6)

A NNS(male) saw M (female) whom the NNS has known for a time.

NNS: Ah it is you! I saw you from your behind and was not sure whether it was really you.

M: You should have said 'looked at you from behind you'.

M: You know the connotation of the word 'behind'.

(No sooner had she said this than he realized "what a serious mistake he had made".)

[Yu, p.12]